

## 第10回 ふくまる夢たまごセミナー

日時 平成31年1月25日(金) 18時~20時

場所 市庁舎7階 大会議室

内容 ○○教育と授業づくり

○講義1 「算数・数学教育と授業づくり」

講師：内村 衛 (教育センター 指導主事)

○講義2 「国語教育と授業づくり」

講師：河合啓志 (学校教育推進課 指導主事)

年明け最初の「ふくまる夢たまごセミナー」が開催されました。インフルエンザが猛威をふるう中、既に何人かの塾生から欠席届が提出されておりましたが、20名の塾生が元気に参加してくれました。本年度(第8期)のセミナーも今回で10回目をむかえ、後は2月の閉塾式を残すだけとなりました。

今回のテーマは、「○○教育と授業づくり」でした。講師には、池田市教育委員会から教育センター指導主事の内村衛先生と学校教育推進課指導主事の河合啓志先生をむかえ、「算数・数学教育と授業づくり」、「国語教育と授業づくり」について、それぞれにお話をいただきました。

### 【講義1】

内村先生からは、初めに、塾生を相手に「ミニ授業」(・運勢占い ・小数のわり算)をしていただいた後、その授業をもとに「算数・数学教育と算数科の授業づくり」についての話がありました。

特に、新学習指導要領のキーワードである「主体的・対話的で深い学び」を算数科や数学科の目標と照らし、次のように整理して、具体的にお話をいただきました。

○「主体的な学び」とは……自分がどのように学んでいくかという見通しを立てながら、またこれまでどのように学んできたのか振り返りながら学ぶこと

○「対話的な学び」とは……それぞれの考えを様々な表現手段を通して共有し、そして自らの表現を見直しながら学ぶこと



○「深い学び」とは……………（教科の）「見方・考え方」を深めるということ  
また、算数科における授業づくりのポイントとして、



- ①飽きない授業づくり
- ②教える（まとめ）、学ばせる（練り上げ）、  
学びの場の設定（めあて）
- ③めあてを創る

をあげ、さらに、集団解決で深め合うためには、「簡単なのはどれですか?」「いつでも使えるのはどれですか?」「同じ・違う・似ているのはどれですか?」「それぞれの考えのいいところ・問題点はどれですか?」「お薦めはどれですか?」など、めあてを焦点化し、問いを設定することの重要性について提示されました。

塾生のみなさんは、先ほどの授業を振り返りながら、ひとつひとつ納得しながら聞き入っていました。

## 【講義2】

続いて、河合先生による国語の授業づくりの講義に移りました。河合先生も内村先生同様、授業を通しながら、国語教育や国語の授業について考えていく講義となりました。

小・中学生の頃、国語があまり好きではなかったという塾生が多くいました。河合先生もそうだったと言います。どうしてそうだったのかを探る授業になるのではないかと思った塾生も多かったのではないのでしょうか。

河合先生は、物語文教材「かさこじぞう」（東京書籍1年生）と説明文教材「どうぶつの赤ちゃん」（光村図書1年生）を準備されており、塾生にどちらの教材を使った授業にするか多数決で選ばせました。塾生のみなさんが選んだのは「かさこじぞう」でした。求める側に臨機応変に対応する姿勢は流石です。

授業は大まかに次のように展開されていきました。

1. 「かさこじぞう」を最初から最後まで音読する。
2. 主な発問
  - ・「物語の初めと終わりでは何が変わったのだろうか?」



- ・「どうしてじぞうさまたちは、もちなどをたくさん積んだそりを引いてやってきたのだろう？」
- ・「じさまの優しさは、4場面のどの言葉から分かる？」
- ・「じさまの優しさは、食べ物をもらえるほどの優しさなの？」
- ・「ばさまは、何もしないで家で待ってただけなのに、『ばさまのうちはどこだ』とじぞうさまが恩返しするのはなぜ？」

河合先生と塾生との、こうしたやり取りの中で、じぞうさまを介して、じさまとばさまの心根や生き様が浮き彫りになっていくのが見えるような授業でした。授業の最後は、「人にとって、大切なことは〇〇だ。〇〇は何だと思えますか？」と問い、全ての塾生が自分の思いを発表しました。



最初から順番に場面を追っていく物語文の指導を当たり前のように経験してきた塾生の多くは、「目からうろこ」の授業（展開）ではなかったでしょうか。故有田和正先生の「スイカはおいしいところから食べる。授業もまた同じ」という言葉を思い起こします。国語嫌いの原因の一つが解明されたような気がしました。

「授業は子どもが仲良くなるためにする」ものにとらえている河合先生ですが、授業後、国語の授業では、「言葉を大切にする子」を育てたいと、多くの例を挙げながら、熱く「言葉の力」を語っていただきました。

いつもは、講話後、グループ討議をして本セミナーの振り返りをするのですが、今回は、二人の先生への感想を書く時間にあて、余韻を残してセミナーを終えました



## <塾生の感想から>

- 算数の授業づくりの中で、子どもに合わせた「めあて」の作成方法や考え方を知ることができてよかったです。「占い」をやるところから算数の内容に発展させておられて、こんな方法の導入があれば子どもたちも楽しむだろうと思いました。内村先生は、ステップごとに、どのようにしていくのが子どもの学びを深めていくのか伝えておられると感じました。

河合先生は、最初にした問いを、最後にもう一度問うことで、どれだけ深まったのかが分かること、子どもの日々の態度からどんなことが読み取れるのかを教えていただきました。

共通していることは、どうしたら子どもたちと関係性を作り上げ、それぞれに合った学びの深め方を作り出せるかではなかったかと思いました。二人の先生方の表現や方法は違っていてもそのことを目標にされているのではないかと思います。

- 今日のセミナーで学んだことは、大きく2点あります。

1点目は、算数の授業づくりです。一つの問題に対して、どのような導入をするのか、多くの考え方に対して、どのように問いかけをすれば、「主体的・対話的で深い学び」につながるのかを日々考える必要性を学びました。クラスの子どもやめあてにあった問いを大切にします。

2点目は、国語の授業で、たくさんの言葉を大切にすることです。主題の読み取りの時に、言葉の変化やニュアンス、読む順番など、小さな気づきを認め合うことこそ、子ども自身の言葉の力を育てることができると感じました。そのためには、教員の私自身が、日々の生活の中で言葉を大切にして、伝える力を学び続けなければいけないと感じました。今日はありがとうございました。

- 二人の先生のお話を聞いて、言葉の大切さというものを強く感じました。「言葉ひとつで、人を殺すことも、生きる希望にすることもできる。」言葉の大切さを知ることができたのと同時に、豊かな言葉に出会わせる授業をしていきたいなと強く思いました。また、算数でも「問い」の聞き方によって、まとめの焦点が変わってくるというのも言葉の持つ力だと思うので、しっかり考えていきたいと思いました。

- 今回のセミナーで、自分の視野が狭く、引き出しも少ないことを改めて感じました。

算数では、子どもにどう問うかというところで、私はひとつしか思い浮かばず、むしろこれしかないのではと思っていましたが、たくさんの問い方があることに気づきました。発問ひとつで子どもの反応が違ったり、方向性も変わってくるので、ひとつの発問でも大切に考えなければいけないなと思いました。

国語でも、いろいろな発問で考えていく中で、最初と最後では考え方が変わったことを実感したので、発問の工夫の重要性を感じました。人間が生きていくために「言葉」は大切に、その言葉を大切にする子どもを育てるために、国語力を育てていきたいと思いました。

- 内村先生と河合先生のお話を聞いて、お話が進むたびに方法が見えてきたり、見方が変わってきたように感じて、どんどん授業に引き込まれて楽しかったです。

内村先生の授業では、こうすればこうなるのでは、という発見が見えてきて、学ぶことの楽しさを感じました。また、どの方法が一番適しているのか、問い方次第で違ってくるというのも面白いなと思いました。

河合先生の授業では、「授業は子どもが仲良くなるためにする」という言葉が印象に残りました。

今日の授業を現場で実践したいと思いました。